

盛城時報

編輯兼發行所 盛城時報社
印刷所 盛城時報社
電話 盛城時報社
廣告料 盛城時報社
訂價 盛城時報社

日支事變犠牲者のため けふ臨時忠魂祭

赤井出身若松大佐が 特に來平して講演

石城郡町村長會主催の日支事變
戦病死者の靈を弔ふ臨時忠魂祭
は十五日午前九時から平町松ヶ
岡公園忠魂碑前で執行、定刻支
會長代理酒井平町助役開式の旨
を告げ、神佛兩様の祭式あり支
會長、在郷軍人聯合分會長、來
賓の祭文朗讀後、司會者、來賓
遺族傷兵、在郷軍人老兵會員、
赤十字社員、愛國婦人會員、一
般參列者の外盛城中學校、平商
業學校、磐城高等女學校、私立
學校、青年訓練生、小學兒童等
拜禮をなし正午閉式した。この
日石城郡赤井村出身若松大佐
佐は特に來平して午後二時から聚
樂館に於て講演をなした。

内郷武徳大會

内郷
村では十六日午前八時から同村
武徳殿で武徳大會を開き柔道、
剣道の試合を行ふが、出場選手
百名である。

小玉川 發電所披露

平町田町電力株式會社では來
る十一月六日小玉川發電所小玉
川神社遷宮式を兼ね發電所の披
露式を舉行する事になつた。

青訓赤井登山

石城
郡豊間村青年訓練所生二十餘名
は十六日午前八時より赤井嶽登
山をなす。

米の國勢調査

石城郡で準備打合せ

平穀物検査所では農林省からの
囑托により來る十一月一日午前
零時現在石城郡内在米高を調査
する事となり左の日割で農林省
から囑托された。調査委員會を
開き調査に關する打合せを行ふ
事になつたが、調査範圍は
一、申告調査によるもの(倉庫

青年團野球 組合せ決定

平青年團の分團對抗式野球大
會は十六日、十七日兩日平第一
校、平商業校の兩校庭で舉行す
るが、組合せ左の如くである。

- 1 新川町 2 南保町
- 3 田町 4 三丁目
- 5 胡澤澤 3の勝者

第二校で 奉仕協議

平町第二小學校自治會では十三
日午後二時より同校に役員會を
開き協議の結果毎週一回町内各
神社、公園、戦死者の墓地を各
班に別れ清掃奉仕する事になつた。

神嘗祭の佳辰を 小濱港起工式

二ヶ年繼續事業着工

植田町の匠教土木事業は工費四
萬四千圓、昭和七年、八年の二
ヶ年繼續事業で小濱港船留工事
を起す事になり十七日神嘗祭の
佳辰を卜し小濱海岸で起工式を
舉行する事になつたが、本年度
は一萬四千圓で五十米の防波堤
を造るわけである。

澤渡の火事

養蠶室から火
石城郡澤渡村大字中寺宿農業
六ヶ月の禁獵も今日は解禁獵第訓練、獵場の研究探訪に余念な
一日なので平地方の天狗連卅餘人充分な自信を持つて元氣一杯
名は夜明けを待たず澤渡、三坂だ、同地方獵場の本年はキチ、
方面へぞんぞん押出した筈、數山鳥等の繁殖殊に良好なので相
ヶ月前からの銃の手入、獵犬の當な獲物がある事と豫想されて

百二十八名の中から 十五名だけ合格

容易でない 巡査試験

十四日平警察署で行はれた本縣の
巡査採用試験の受験者は百二十八
名であつたが、合格したもの
十五名で、この中から五名乃至
七名を採用する筈であるが、受
験者中には私立大學生數名があ
つた。

鐵道從業員 慰安大會

平縣管内鐵道從業員慰安會は來
月一、二、三の三日間平町聚樂館
で開催することに決定、當日十
五年、二十年勤続者の表彰を行
ふ筈である。

川部道路竣工

石城
郡川部村大字瀬戸地内道路橋梁
工事は此程竣工したので十七日
午前十時から同字眞了神社で祝
賀式を舉行する。

求人開拓成績

平職
業紹介所十日の總動員日におけ
る求人開拓の成績は商業男八名
郡内使用人女七名、その他合計
十三名、土木匠教事業その他三件に就
て附議した。

高久村會

石城郡高
久村會は十三日午前十時より開
き土木匠教事業その他三件に就
て附議した。

水産試験場 移轉の陳情

商港の完成を前に町の發展をは
かるため石城郡小濱町では明
年度において町内の區劃整理を
斷行することとなつたが、この
結果縣立水産試験場は邪魔にな
るので適當の場所に移轉された
こと十四日鈴木町長から縣に突
然の申込みあり面食らつてゐるが
同町では現在の實業補習學校を

石川亭開業

平町田町
石川亭は過般の火災で類焼した
ので建築を急いでゐるが、愈々
業學校辯論部では廿五日午前八
時より同校講堂で校内辯論大會
を開く。

投稿を募る

平町長に
どんな人を
名町長として好評を博してゐ
た伏見平町長は既に辭職と決
定したので平町では近く後任
町長を選挙せねばならぬが、
市制を目前とする平町の將來は益
々多事多端で町長の抱負難
手腕力量の如何が直接吾々町
民の日常生活に影響がある事
明白で、實に町長人選は平町
として重大事ではなればなら
ぬ。町長の選挙は町會議員の
権限に屬するけれども町民の
して希望を述べざる事は大いに
歓迎すべき事であるため讀者
の忌憚なき意見を募る次第で
ある。(紙上匿名は隨意)

前借横領

モグリ周旋
宮城縣理町生れ當時住所不定
無職太田木(五五)は去る二日小
濱字定西齋藤平藏長女シノブ
十七)を千葉縣船橋町に女中
世話し前借金二十五圓を横領し
て逃走したので平署で捜索中

▲四倉市場取引 四倉
 兩市場は明十六日限り閉場する
 事既報の如くであるが、十四日
 取引は百四十二貫で最高五十二
 圓、最低三十五圓、平均五十二
 圓二十錢であつた。

▲石城地方漁況 石城
 郡小名濱、江名兩町の底曳漁業
 家は昨今一齊に出漁したが、連
 日の天候不良で目下漁獲高は少
 いが来月中旬頃には相當な漁獲
 あるものと豫想され本年は昨年
 に比し十隻の漁船が増加され各
 漁共活氣づいて来た。

楊 内科 専門
 十二指 腸胃病 腸胃病
松 内科 専門
 皮膚病 淋病 婦人病
 院 醫 科 院 醫 科 院
 (七〇一話電) 平町南

浮氣な亭主
妻が説諭願
 石城郡内郷村字平太郎日雇業古
 川政太郎(三三)は去月二日妻は
 る(一九)と二兒を産して茨城
 縣多賀郡南村へ出稼ぎに出た
 が間もなく同村木村さん(三〇)
 と情を通じ留守宅に一鏡の送金
 もせず妻は再三亭主の歸宅
 を促したが何の便りもないので
 幼兒二人を抱へて其日にも困る
 から十四日平署に出頭浮氣な
 亭主への説諭願ひを願ひ出した。

新築落成開業御披露
 秋冷の候皆々様には彌々御清祥に涉ら
 せられ慶賀の至りに存じます。
 借て過般弊店の類焼に際しては何彼
 御高配を賜はりまして誠に有り難く感
 謝に堪へません、爾來銳意新築工事中
 の處此程愈々完成し茲に甦生の陣容を
 整へて再びお華客皆々様をお迎へし最
 善の奉仕が出来る事になりましたので
 來十七日神嘗祭の佳辰を下し營業を開
 始する事に相成りました。何卒倍舊の
 御愛顧を垂れさせられ度新築落成御披
 露芳々茲に謹んで懇願申し上げます。
 尚ほ三階大廣間の宴會席御利用に就ては
 格安の御相談に應ずる外新設食堂部では
 牛鍋御飯付三十五錢、お酒一本三十錢
 で大々的の勉強を致します。
 昭和七年十月 平町田町

石川亭
 電話四三三番

和洋銅鐵金物問屋
金屋商店
 諸橋久太郎
 電話九九九番
 内科 小兒科 (入院應需)
 花柳病科
藤沼醫院
 平町紺屋町
 電話平四〇七番

吸入用酸素 純度 99%
 度量度
 モノサシ
 マス
 ハカリ
 体温器
 寒暖計
 秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス
關内藥局
 電話四〇番

夏期中臨時大特賣トシテ御願申シマシタ石
 炭モ御蔭様デ全部ヲ賣リ盡シマシタ、就キ
 マシテハ從來ノ石炭ヲ御願ヒスル事ニナリ
 マシタカラ不相變御引立ノ程偏ニ御願申シ
 マス。
◎正味十貫目 金三拾錢
 御注文ハ
 電話三七番へ
 平停車場前
阿部石炭商店

油と味噌
山崎合名會社
 福島縣平町
 電話(營業部専用)一〇番
 (一般用)四二七番
 振替東京一九七五番
 明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

廣 告
 新任外科部長
内木學士來任
 七月十一日ヨリ毎日診療ニ従事ス
 内臓外科 醫學士 内木宗八
 整形外科 泌尿器科
 昭和七年七月
 平町新川町十九番地
木村病院
 電話一六四番

消費節約
 品質 家庭染料
みやぶ染
 平町一丁目
 特約店 大平や藥店
 電話四六二番

專門 内科一般
 内科ハ何デモ診療致マス
 呼吸器病バカリデハアリマセン
 平町南町六五改(電話一八一番)
川井内科診療所
 醫學士 川井重之
 女 醫學士 川井安子
生花教授
 家元龍生派池坊
 生花、盛花、投入、自然
 營業では御座いませぬ趣味で御相手致し度うございます
 平町仲町三
華道教授 天水庵 岡田華悦